

今週のメニュー

■トピックス

◇キャリア教育教材「おしごと年鑑 2024」に協賛しています

■随想

◇ららら、プラスチック (14)

歯ブラシのパッケージ ～ ふるさとのはなしをしよう

元 日本プラスチック工業連盟 専務理事 岸村 小太郎

■トピックス

◇キャリア教育教材「おしごと年鑑 2024」に協賛しています

塩ビ工業・環境協会（VEC）は、「おしごと年鑑 2024」（6月14日発行、朝日新聞社、75,000部）に協賛しています（今回で5回目の協賛になります）。

文部科学省が推進しているキャリア教育では、「働くことの大切さの理解」、「興味・関心の幅の拡大」等が主なポイントとなり、職場体験や企業訪問、出前授業、工場見学会などの取り組みが進められています。

今回発行された「おしごと年鑑」は、企業と小・中学校を結ぶキャリア教育 支援プロジェクトの教材です。企業や団体の仕事を分かりやすく解説し、学校の総合学習や職業体験の授業で使われています。日本全国の小・中学校（約3万校）、教育委員会、子ども食堂、院内学級、児童養護施設、海外日本人学校などに合計7.5万冊が無料配布されるほか、市販本としても発行されます。



「おしごと年鑑 2024 版」では、子どもたちにとって身近な120のテーマと質問に、企業や団体がズバリ回答。子どもたちは日本を代表する企業の仕事を豊富な資料とかわいいイラスト、分かり易い文章で楽しく学べます。子供たちがワクワクしながら社会や経済のしくみを理解できる一冊となっています。

VECのページは「未来を生み出す科学技術のお仕事」に分類され、『街のいろんなところで、塩ビが使われているってホント?』というタイトルで掲載。身近な暮らしの中で幅広く使用されている塩ビ製品、および、そのリサイクル事例などを分かり易く紹介しています（234~235ページ）。

街のいろんなところで、塩ビが使われているってホント？

塩ビ工業・環境協会 VEC

塩ビは、あらゆるプラスチックのなかでも、最も身近なプラスチックです。身近なプラスチックのなかでも、最も身近なプラスチックです。身近なプラスチックのなかでも、最も身近なプラスチックです。

塩ビは、あらゆるプラスチックのなかでも、最も身近なプラスチックです。身近なプラスチックのなかでも、最も身近なプラスチックです。身近なプラスチックのなかでも、最も身近なプラスチックです。

丈夫で長持ち、リサイクルしやすい素材

塩ビのプラスチックは、丈夫で長持ちです。また、燃やしても発生するCO₂は一般プラスチックの約40%です。燃やしても発生するCO₂は一般プラスチックの約40%です。燃やしても発生するCO₂は一般プラスチックの約40%です。

塩ビは、あらゆるプラスチックのなかでも、最も身近なプラスチックです。身近なプラスチックのなかでも、最も身近なプラスチックです。身近なプラスチックのなかでも、最も身近なプラスチックです。

安全な暮らしを守る塩ビの製品

みんなのお家の中、身の回りには電線コードや壁紙、台所・洗面所の床など塩ビ製品がたくさんあります。実は、塩ビには火がつきにくい性質があり、人知れずみんなを火災から守っています。

塩ビのおかげで、安心・安全な生活が保たれているのね。

みんなが安心して暮らせる環境を支えています

昨年、VEC が実施した出前授業やキャリア教育（企業訪問）、各種イベントで、子供達から「おしごと年鑑は学校で見ている」という声を聴くことも増え、おしごと年鑑が教育の場で活用されていると実感する機会が増えてきました。

<https://www.vec.gr.jp/lib/lib3.html>

また、「SDGs ってなに？」のコーナーでは、『塩を60%含むプラスチック「塩ビ」』(302ページ)を掲載しました。海水の塩からつくられるプラスチックとして、その特徴を分かり易く紹介しています。

塩ビ工業・環境協会

塩を60%含むプラスチック「塩ビ」

塩ビは海の塩からつくられるプラスチック。正式名称はポリ塩化ビニル (PVC) で、塩60%と石油40%からつくられます。石油が40%と省資源なうえ、長年の使用に耐える特長を持っていて、約70%が15年間以上使う製品に使用されます。また、使い終わったらリサイクルでき、燃やしても発生するCO₂は一般プラスチックの約40%。CO₂排出の削減にもなります。当協会では、塩ビの特性を世の中に知ってもらい、同時にリサイクルの推進を目指しています。

6 持続可能な消費生活
9 産業と労働者の高品質な雇用と成長
11 持続可能な都市とコミュニティ
12 持続可能な消費と生産

塩 60%
石油 40%

Salt Oil

ポリ塩化ビニルは、海水に含まれる塩と石油でできています。

塩ビは長年の使用に耐える特性があります。使用後の塩ビ製品をどのように集め、他のプラスチックとどのように分けるかがリサイクルの課題です。

燃焼率 50%
CO₂削減率 20%
CO₂削減率 20%

また、「おしごと年鑑」の掲載記事を読むことができるウェブサイト「おしごととはくぶつかん」も9月に開設される予定です。ページの最後には復習用に、仕事に関連したクイズが用意されており、ゲーム感覚で繰り返し学べます。是非、ご覧ください。

教材はこちら！

いろいろなおしごとを、楽しく学べる！

おしごととはくぶつかん

■ 随想

◇ららら、プラスチック (14)

歯ブラシのパッケージ ～ ふるさとのはなしをしよう

元 日本プラスチック工業連盟 専務理事 岸村 小太郎

前回の「[ららら、プラスチック\(13\)](#)」では、食品包材について、包材そのものはきれいでマテリアルリサイクルに適した素材なのに、紙のラベルがきれいに剥がせないため、固形燃料の原料として燃やされてしまうという話をした。

今回は、最近購入した歯ブラシのパッケージについての話をしたい。

多くの歯ブラシはブリスターパックで個包装されている。ブリスターとは水ぶくれの意味で、透明プラスチックを立体的に成形したブリスター（カバー部分）に製品（歯ブラシ）を入れ、台紙で封をしている。

新しい歯ブラシを使用する際には台紙を剥がして中身を取り出すが、ブリスター側に剥がした台紙の一部がどうしても残ってしまう（写真1）。ブリスターはきれいな単一素材で、マテリアルリサイクルに適しているのに、台紙の一部が付着しているため、ラベルが残った食品包材と同じ運命を辿ることになる。



写真1. 歯ブラシのパッケージ
（紙の台紙）



写真2. 歯ブラシのパッケージ
（プラスチックの台紙）



さて、最近購入した歯ブラシのブリスターパックだが、紙ではなくプラスチック製の台紙が使用されていた（写真2）。「プラスチック製の台紙」という表現が日本語として正しいかどうかは別として、これは面白いと思った。開封後の紙が付着していないブリスターはマテリアルリサイクルに適した素材であるだけでなく、それだけを集めれば水平リサイクルを含めた高度なリサイクルも可能になる。もちろん、台紙のプラスチックも再資源化可能だ。このようなオールプラスチックのパッケージは「脱プラ」や「減プラ」という流れには反するが、プラスチックの資源循環という観点からは大いに評価できる。このパッケージの開発・採用を決断したメーカーには敬意を表したい。

と、ここまで書いたところで、磁気乗車券に関する新聞記事が目にとまった。記事によると、JR 東日本を含む関東の鉄道8社が、磁気切符を2026年度末以降に順次廃止し、QRコードを用いた切符に切替えていくと発表している（5/29）。切り替えの最大の理由として、磁気乗車券を扱う改札機の機構の複雑さが第一に挙げられているが、磁気乗車券のリサイクルには磁気層の分離と廃棄が必要という環境側面も一因と

のこと。

最近は、鉄道の利用には専ら Suica のような IC カードを利用しているので、あまり気にしなくなっていたが、新幹線の乗車券・特急券を購入した際には「使用後、この切符に塗布された磁性体は・・・」と罪悪感に近いものを感じていた。切符の磁性体を再利用しているという話は聞かない。

そして、ここまで書いたところで、プラ工連時代に訪問した台北やバンコクの地下鉄（MRT）では、乗車券としてプラスチック製のコイン型トークン（写真3）を使用していたことを思い出した。乗車に際しては自動改札機のセンサーにトークンをタッ



チ、降車の際は自動改札機の回収口にトークンを投入すればゲートが開く。このようにしてプラスチック製のトークンは確実に回収され、繰り返し使用される。

プラスチックを使用することで、資源の有効活用や廃棄物の削減を図る。そんな視点からの製品開発や市場開発を期待している。

写真3. プラスチック製のトークン

（2018年9月 バンコク・スクンビット駅にて筆者撮影）

話は変わるが、先日（5/14）作曲家のキダ・タロー氏が亡くなった。キダ・タローと言えば、数多くのCMソングやバラエティ番組のテーマ曲の作曲者として知られているが、私が小学生の頃に聴き覚え、今でも時々口ずさむその歌を作曲したのも同氏であることを、彼の訃報に関する記事で初めて知った。そして、長い間 間違った歌詞で歌っていたことも・・・。

その歌は、北原謙二が歌ってヒットした「ふるさとのはなしをしよう」。

ここで歌われているのは、私が生まれ育った札幌の街では見られない情景で、「これが内地の風景なのか」と想像していたことを思い出す。また、「日本の原風景」という言葉を知るずっと以前のことだが、子ども心にも何となく郷愁のようなものを感じたものだった。

ふるさとのはなしをしよう 1965年（昭和40年）

- | | | |
|---|---|--|
| 1 砂山に さわぐ潮風
かつお舟 はいる浜辺の
夕焼けが 海をいろどる
きみの知らない ぼくのふるさと
ふるさとの はなしをしよう | 2 鳴る花火 ならぶ夜店に
縁日の まちのともしび
下町の 夜が匂うよ
きみが生まれた きみのふるさと
ふるさとの はなしをしよう | 3 今頃は 丘の畑に
桃の実が 赤くなるころ
遠い日の 夢の数々
ぼくは知りたい きみのふるさと
ふるさとの はなしをしよう |
|---|---|--|

（作詞：伊野上のぼる、 作曲：キダ・タロー）

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp
